

研究員 の眼

比較が思考停止を打破する —B球場でいつものA球場を思う—

保険研究部 主任研究員 磯部 広貴
(03)3512-1789 e-mail: h-isobe@nli-research.co.jp

筆者が応援するプロ野球チームが本拠地とするA球場については、昨今、誇らしくもサクセスストーリーを見聞きすることが多い。

A球場は首都圏の交通至便な場所にありながら、かつては観客が入らず地方都市への本拠地移転まで取り沙汰されていた。しかし新しい球団オーナーになって以来、女性観客を増やすためトイレの清掃を強化、インング間イベントの盛り上げ、球団によるA球場運営会社買収を経ての一体運営など様々な手を打ち、今や満員御礼が常態となった。

他の球場で行われるビジターゲームに行ってもファンクラブのポイントがつかないといった現実的な事情もあって、筆者は長くA球場以外の球場に足を運んでいなかった。世に喧伝されるサクセスストーリーに流されて「なんでもA球場が一番」と思い込んでいた影響もあろう。

ところが先月、オープン戦を観戦しようと珍しくB球場に赴いた。B球場については、本拠地にしているチームの戦績が振るわないこともあって、屋根をかぶせただけのドーム球場のため夏場は蒸し風呂状態になるらしいなど、A球場のような成功談は特に聞こえてこない。しかし実際に行ってみると多くの長所が見受けられた。

まずは飲食店の数と質の充実ぶりである。B球場は地形を生かしたすり鉢状の構造で地下に広がっているのだが、B球場を取り巻くように地上部分に並んだ飲食店には自分の座席が球場内のどの場所であってもすべて行けるようで選択肢が幅広い。また、客席エリアでビールやアイスクリームの代金を売り子さんに支払うに際しクレジットカード決済ができた（A球場の客席エリアではクレジットカードに対応していない）。

特に驚いたのはシートがクッションになっていたことであった。屋根があつて雨が入らないがゆえに可能なことかもしれないが（但し密閉型ドームではないため完全に雨露をしのげるわけではない）、自らに「球場のシートなんてプラスチック製で硬いに決まっている」というアンコンシャス・バイアスがあつたことを思い知らされた。なお、これはVIP席ではなく誰でも購入できる内野指定席である。

その一方、やはりA球場がよいと思える点もあつたのだが、ここで両球場の優劣をつけることに大

きな意味はないだろう。実感したのは、楽観的なものであれ悲観的なものであれ思考を停止した状態から、他と比べることによりよい点も悪い点も見えてくる、比較があって思考停止を打破できるということだ。

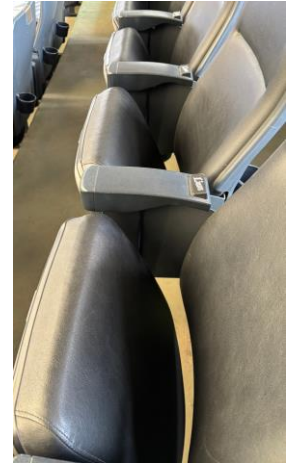
思えばシンクタンクに届く調査依頼の多くには、諸外国との対比が必須事項として含まれている。わが国の現状だけでは読み流してしまうような内容であったとしても、他国と比べる中で長所も短所も自然と浮かび上がり、次に必要な対策を考えることが可能になる。そのような先人の知恵を受けて、諸外国との対比が自然と調査依頼に加えられるようになったのだろう。

さて、いつものA球場で観戦していると何やら尻が痛いように感じた。A球場は野外球場であるものの、連日満員で儲かっているのだから、雨にも強い特殊素材でシートをクッションにしてくれないものかと願った次第である。そのような願望は、B球場でクッションのシートを体験しないと生まれなかったに違いない。

【両球場の内野指定席（筆者撮影）】

< A 球場 >

< B 球場 >



以上